

順天堂大学医学部附属浦安病院 皮膚科 専門研修プログラム



資料 1

2022 年度 順天堂大学医学部附属浦安病院 東葛南部保健医療圏 皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科を研修基幹施設として、順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター、順天堂大学医学部附属静岡病院皮膚・アレルギー科、日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院皮膚科、日本赤十字社 さいたま赤十字病院皮膚科を研修連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制：

研修基幹施設：順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：須賀 康（診療科長）

専門領域：遺伝性皮膚疾患、とくに角化症. 美容皮膚科.

指導医：高森建二 専門領域：かゆみ、アトピー性皮膚炎

指導医：金子高英 専門領域：皮膚外科手術、がん化学療法

指導医：木村有太子 専門領域：レーザー・美容皮膚科、真菌症

指導医：木下綾子 専門領域：皮膚科一般

指導医：一宮紀子 専門領域：皮膚科一般

施設特徴：専門外来として、角化症・乾癬外来、色素異常症・白斑外来、光線・アトピー性皮膚炎・脱毛症外来、アレルギー・パッチテスト外来、かゆみ外来、真菌症外来、皮膚外科外来などを設けており、外来患者数は 1 日平均 175 名余にのぼり、年間の全身麻酔下の手術件数は約 70 件、局所麻酔下の手術を含め

ると 1000 件を超える。特に千葉県東葛南部保健医療圏のがん診療拠点病院の指定も受けており、入院での皮膚悪性腫瘍切除術の年間手術件数は約 50 件にのぼるため、難治性の皮膚疾患から common disease まで広く豊富な臨床経験を積むことが可能である。また、病院の 8 階には研究施設も併設されているため、かゆみや角化症、レーザー治療などの研究をおこなっており、指導医との連携を強め、多様な研究成果を創出している。なお、研修連携施設の順天堂大学東京江東高齢者医療センター皮膚科、東京臨海病院皮膚科は同じ医療圏内にある施設であるため、毎週の研修基幹施設における医局会、教授回診などにも出席が可能であり、適宜、症例写真などを確認しつつ当院の指導医からの指導も受けることが可能である。

研修連携施設：順天堂大学医学部附属順天堂大学東京江東高齢者医療センター皮膚科

所在地：東京都江東区新砂 3 丁目 3-20

プログラム連携施設担当者(指導医)：植木理恵(診療科長)

研修連携施設：順天堂大学医学部附属静岡病院皮膚・アレルギー科

所在地：静岡県伊豆の国市長岡 1129

プログラム連携施設担当者(指導医)：長谷川敏男(診療科長)

研修連携施設：日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院皮膚科

所在地：東京都江戸川区臨海町 1-4-2

プログラム連携施設担当者(指導医)：阿部澄乃(診療部長)

研修連携施設：日本赤十字社 さいたま赤十字病院

所在地：埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5

プログラム連携施設担当者(指導医)：三石 剛(診療部長)

研修準連携施設：順天堂大学医学部附属浦安病院形成外科

所在地：千葉県浦安市富岡 2-1-1

指導医：林 礼人(診療科長)

研修準連携施設：順天堂大学医学部附属浦安病院病理診断科

所在地：千葉県浦安市富岡 2-1-1

指導医：富田茂樹(診療科長)

研修準連携施設：東京女子医科大学八千代医療センター皮膚科

所在地：千葉県八千代市大和田新田 477-96

指導医：宮田和法(診療科長)

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

委員長：須賀 康(順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科長)

委員：金子 高英(順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科准教授)

：木村 有太子(順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科准教授)

：木下 綾子(順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科助手)

：一宮 紀子(順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科助手)

：野口 亜希子(順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科外来看護主任)

：長谷川 敏男(順天堂大学医学部附属静岡病院皮膚・アレルギー科教授)

：植木 理恵(順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター皮膚科教授)

：阿部 澄乃(日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院皮膚科部長)

：三石 剛(日本赤十字社 さいたま赤十字病院皮膚科部長)

前年度診療実績：

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年間手術数	指導医数
順天堂大学医学部附属浦安病院	175人	16人	985件	77件	6人
順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター	90人	4人	187件	0件	1人
順天堂大学医学部附属静岡病院	98人	9人	775件	0件	2人
日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院	61人	5人	235件	0件	1人
日本赤十字社 さいたま赤十字病院	30人	3人	467件	23件	1人
合計	454人	37人	2629件	94件	11人

D. 募集定員：4人 / 年

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，小論文および面接により決定（順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人宛に別途通知する。なお，応募方法については，順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科のホームページで後期臨床研修医（専攻医）募集要項を確認の上，後期臨床研修医（専攻医）願書と履歴書など必要書類を提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科

TEL : 047-353-3111 FAX : 047-380-1042

教授 須賀 康 (ysuga@juntendo. ac. jp)

医局長 金子高英 (t. kaneko. ut@juntendo. ac. jp)

H. 到達研修目標 :

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担 :

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。基幹施設において少なくとも1年間の研修を行う。
2. 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター皮膚科、順天堂大学医学部附属静岡皮膚・アレルギー科は同様の順天堂大学医学部附属病院であるため、当院で医学一般の基本的知識技術を習得させた後、さらに専門性の高い領域の疾患に対しての診断・治療の研修を行ない、当院の教育・研究などでは不足している総合力を補完する。これらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも3ヶ月の研修を行う。
3. 日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院皮膚科、日本赤十字社 さいたま赤十字病院皮膚科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科の研修を補完する。これらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも3ヶ月の研修を行う。
4. 準連携施設である順天堂大学医学部附属浦安病院形成外科では、主に皮膚悪性腫瘍に対する手術手技を習得する。順天堂大学医学部附属浦安病院病理診断科では、主に皮膚病理診断に対する考え方、診断する技術を習得する。東京女子医科大学八千代医療センター皮膚科においては、診察医と陪席の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外来診

療の方法を習得する。これらの準連携施設を希望する者には、最長 1 年間の研修を行う可能性がある。研修する専攻医は各施設の指導者と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加などを随時行う。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	基幹	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	基幹
c	基幹	連携	連携	連携	基幹
d	基幹	準連携 (形成外科・病理診断科・皮膚科)	基幹	連携	基幹
e	基幹	連携	準連携 (形成外科・病理診断科・皮膚科)	連携	基幹
f	基幹	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
g	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。3年目には連携施設で研修を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。

- b: 研修基幹施設以外に2年間の研修を連携施設で行うコース。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。
- c: 研修基幹施設以外に3年間の研修を連携施設で行うコース。ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコースである。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により3年間同一施設もあり得る。
- d: 研修2年目に順天堂大学医学部附属浦安病院形成外科、病理診断科、もしくは女子医大八千代医療センターにて研修し、皮膚外科、皮膚病理診断、もしくは皮膚科の外来診療の技術と見識を深めるコース。4年目には連携施設で研修を行う。
- e: 研修2年目には連携施設で、研修3年目に順天堂大学医学部附属浦安病院形成外科、病理診断科、もしくは女子医大八千代医療センターで研修し、4年目には再び連携施設で研修を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。
- f: 研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。基幹施設の研修からはじまり、2年目には連携施設での研修をおこなって、3年目から研究を本格的に開始するという濃密な研修がおこなわれる。博士号取得の基本的コースとする。
- g: 専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイレベルコース。連携施設の研修からはじまり、期間施設での研修は研究と両立しながらおこなうため、多大な努力を5年間持続する必要がある。

2. 研修方法

1) 順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科

外来: 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。毎週の病理カンファレンス、勉強会では症例発表を行い、評価を受ける。

病棟: 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟・チャート回診では受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。病院が実施する医療安全、感染症対策、キャンサーボードなどの各種講習会にも定期的に参加する。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 大手術	外来	外来	病理 外来	外来・病棟	
午後	病棟 小手術 チャート回 診 抄読会	病棟 小手術 病理	病棟 レーザー・ 小手術 褥瘡回診 院内各種 講習会	病棟 小手術 総回診 医局会 勉強会	病棟 レーザー・ 小手術		

*当直・休日の日直は計2～3回/月を予定。

2) 連携施設

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター皮膚科：

指導医の下、地域の高齢者医療の中核病院で、老人に多い皮膚疾患の診断、処置、手術法を習得するとともに、高齢者医療における行政などの社会的支援、及び高齢者施設や往診医、訪問看護師との連携について知識を修得する。また、褥瘡委員会・NST委員会および、病院が実施する医療安全講習会にも定期的に参加する。同じ医療圏内にあるため、順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科の医局カンファレンス、抄読会にも週1回参加し学習する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来 手術	病棟	外来	カンファレンス 外来	
午後	病棟 カンファレンス	外来 手術	病棟	外来 手術	病棟		

※宿直は1回/月を予定

順天堂大学医学部附属静岡病院皮膚・アレルギー科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。遠方にあるため、この期間は順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科のカンファレンス、抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診 外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 手術	病棟 手術	病棟	病棟 カンファレンス	病棟 手術		

※オンコールは 5 回/月を予定

日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。順天堂大学浦安病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 第 2, 第 4 のみ	
午後	外来 カンファレンス	手術 カンファレンス	褥瘡回診 外来	外来	外来		

*宿直は 1～2 回/月を予定。午前の外来中、入院患者さんを外来処置室で処置する。毎夕方は病棟回診をおこなう。

日本赤十字社 さいたま赤十字病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。さいたま赤十字病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習する。病院が実施する医療安全講習会にも定期的に参加する。医療圏は異なるが移動は 1 時間程度のため，できる限り順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科の医局カンファレンス，抄読会にも参加し学習する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	外来/手術	外来	
午後	外来/手術	外来・病棟	カンファレンス	手術	外来・病棟	

*宿直は2～3回/月を予定。

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

順天堂大学医学部附属浦安病院形成外科、病理診断科、もしくは東京女子医大八千代医療センターにて研修を選択できる。皮膚科医として、皮膚外科、皮膚病理診断、皮膚科の一般診療が独立して出来るよう経験と知識をより深化させることを目標とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 2年目：主に順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
- 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
- 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。
3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、日本皮膚科学会東京地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」の A. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年 3 月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検

討する。

5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大 6 ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 3 回/月程度である。

2021 年 5 月 1 日

順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
須賀 康